

## 蘇る『猪の瀬戸湿原』

5月26日の定例活動日は恒例の南平台登山で、山頂から野焼きの後の湿原を見渡すことになっています。

今年は、当日あいにく曇りの天気です。登山をあきらめ、午前中、シカよけのネット張り作業をして終了しましたが、少し晴れ間がのぞいたこともあり、余力のある児玉清一郎、徳田健司、渡辺新十郎、定松亨の4名が午後、山頂を目指しました。

1時間半ほどで登頂し、ミヤマキ

リシマの咲く中で蘇った猪の瀬戸湿原を眺めることができました。

しかし撮影した、児玉清一郎氏はややもやのかかった映像に満足せず、後日、改めて晴天の日に登頂して撮影した全景写真(右上)を届けてくれました。

すっきりと新緑の芽吹いた猪の瀬戸湿原が映し出されています。

県道南側の景観は50年前に戻ったようですが、この中にかつての植物や動物たちがよみがえっているかどうか、調査が必要です。



定例日に登頂した4名の会員



野焼き実施後、新緑の芽吹いた猪の瀬戸湿原(児玉清一郎氏提供)

夏のキスゲやヒメユリ、秋のヒゴタイ、サワギキョウなど注意深く観察していきましょう。

また、侵入を始めたアメリカヤマゴボウやイタチハギの駆除活動も並行して行わなければなりません。

湿原環境の保全はいきの永い取り組みが必要です。

子孫へ生物多様性を引き継ぎ、住みよいふるさとの自然環境維持のために、これからもがんばっていきましょう。

登頂された4名の会員さんお疲れさまでした。